

vol.4

2025.9.17 発行

月刊タイガー通信

TIGER's Value Creation Story

File.4

加害野生鳥獣が美郷町の名産品や革製品に生まれ変わるまで

深刻化する鳥獣被害に、新たな視点で挑むメンバーがいます。美郷町を舞台に、単なる有害駆除に留まらず、捕獲した命を価値ある資源へと転換し、地域の活性化に貢献する彼らの活動に込められた想いと、事業の未来に迫ります。



取締役
こばやし かずき
小林 一木さん

有害鳥獣駆除事業を 始めた経緯

町の要請に応えるかたちでのスタート

当社はもともと、鳥獣の侵入防止対策を主力事業としていました。しかし、20年来の交流がある美郷町において、有害駆除班の担い手の減少が深刻化。「田畑を防ぐだけでなく、被害をもたらす個体を減らしてほしい」という町の想いに応え、数年前から本格的に有害鳥獣駆除に取り組んでいます。



有害鳥獣駆除による美郷町への貢献

住民の安堵の声がやりがいに

捕獲対象の中心はイノシシですが、近年はシカやアナグマなどによる被害も増えつつあります。中には屋根裏や物置小屋に住み着かれ、安心して眠れないという方もいました。そのようなお困りごとにお答えし被害がなくなり、「ようやくこの辺のイノシシがいなくなったわ」と喜んでいただけることが、何よりのやりがいとなっています。

「またお願いね」という言葉が信頼の証

これまでいただいた「ありがとう」という言葉は、数えきれないほどです。その中でも特に嬉しいのは、「またお願いね」と、次の機会にも頼りにしていただくこと。再度ご依頼をいただけたときは、「タイガーさんに任せれば解決してくれる」という信頼を感じ、日々身が引き締まる思いです。

C S F 対策の具体的な取り組み

見えない菌を「運ばない」ための 徹底した衛生管理

当社は、人や物を介して拡大するC S F (豚熱)^(※1)の防疫対策にも注力しています。現場ごとに防護服に着替え、作業後は消石灰で土壌を中和。使用した檻や道具はすべてベンザルコニウム^(※2)で毎回消毒し、菌を「その場に残さない、他の場所へ運ばない」という意識を徹底しています。

- ※1 豚やイノシシが感染するウイルス性の伝染病。伝染力が非常に強いが、人には感染しない。
- ※2 殺菌・消毒剤として広く使用される薬品の1つ。

防疫対策を徹底する理由

ジビエの安全と地域の安心を守るために

C S Fの感染拡大を防ぐためには、「検査をしていない個体はすべて感染している可能性がある」とみなし、対応することが重要。特に食肉として活用するイノシシは、PCR検査で陰性が証明されたものしか流通させることができません。この徹底した防疫対策こそが、私たちが提供する肉の安全性を担保し、地域全体の安心を守ることにつながるのです。



美郷バレー中国営業所
地域おこし協力隊
おかもと ふうま
岡本 鳳菜さん

「農家さんを助けたい」 という想いで始まった捕獲事業

見過ごされた命に新たな価値を見出し、地域の力に

きっかけは、美郷町で活用されていなかった捕獲檻でした。深刻化する鳥獣被害から農家さんを助けたいという想いで、約3年前に檻を復旧し捕獲を開始。しかし、捕獲数が増えても人手不足や「夏のイノシシはおいしくない」といった先入観が壁となり、食肉活用は思うように進みませんでした。この状況を打開すべく侵入防止だけでなく、加害個体の捕獲、お肉の活用に本格参画し、これまで利用されていなかった個体も丁寧に活用する道筋を整えました。

信頼の品質を支える 5つのステップ

捕獲した野生動物が、安心・安全な食肉として食卓に届くまで。そこには、私たちの徹底したこだわりがあります。



捕獲から食肉になるまでの流れ

STEP 1 捕獲・引き取り

私たちが管理する檻や、地元の猟師が捕獲した野生動物を引き取ります。

STEP 2 屠殺・搬入

食肉にする個体は、原則として私たちの手で屠殺を行い、すぐに解体施設へ。安全・鮮度を保ち、肉の品質劣化を防ぐため、迅速な処理と衛生管理が求められます。

STEP 3 体表洗浄

高圧洗浄機を使い、体表の泥などの汚染物を隅々まで丁寧に洗い流します。施設内や食肉への微生物やウイルスの付着を防ぐ工程です。

STEP 4 解体・内臓摘出

HACCP^(※1)に基づき、個体の屠殺から2時間以内に内臓を摘出します。腐敗や臭い移りを防ぎ、鮮度を保つために設けた厳格な社内基準です。

STEP 5 厳格な衛生チェック

国のマニュアル「野生鳥獣肉カラーアトラス^(※2)」に照らし、内臓や肉の状態を厳しくチェック。少しでも懸念のあるものは決して食卓に届けません。

- ※1 HACCP(ハサップ)：食品の製造工程で危害を分析し管理する衛生管理手法。
- ※2 野生鳥獣肉カラーアトラス：食肉処理の際に参照される衛生管理マニュアル。

山の恵みを、地域と共に未来へつなぐ

専門家の技で、素材の可能性を最大限に

捕獲した野生動物は、専門家との連携で食材としての可能性が広がります。イノシシは出雲の「スモークハウス白南風^{しらなまかぜ}」で燻製に、イノシシ・シカの端肉は広島の特産店でソーセージへと姿を変えます。

地域の手仕事が、新たな命を吹き込む

皮も大切な資源です。東京で自然の染料を用いて加工された革は、美郷町乙原地区の作り手の皆さんへ。かつて縫製工場で培われたその手仕事が、温かみあるレザークラフト製品を生み出しています。

これらの野生動物の活用を含めたタイガー中国営業所の事業は、役場が中心となって進める「美郷バレー構想」の一環です。私たちはその一端を担い、産官学民^(※3)の輪の中で地域と共に歩んでいます。



- ※3 産官学民(さんかんがくみん)：産業界(企業)、行政(国・自治体)、大学(教育・研究機関)に、住民やNPOなどの市民(民)も加わって連携し、社会全体の発展を目指す取り組み。

当時を振り返る

製品が生まれた日のお話

我々の製品が誕生する時には、様々な想いや背景があり、それに取り組んだ社員の皆さんや協力会社様の努力もありました。日々お客様が手にする製品に込められた、普段は語られることのない、始まりの時の物語を、その一員として見てきた私からご紹介します。

生産部
統括マネージャー

さかのぶひと
坂 巨人 さん



天敵ニラミ 「ふくろう」

リアルな造形美を追求したフクロウ型の天敵おとしマネキン。ギョロリとしたリアルな目が特長。

特長 1 最もこだわった「フクロウ型」ボディの形状

形を作るにあたり、最初にモデルとしたのは「ベンガルワシミミズク」というフクロウ科に属する鳥。動物園で観察したり、様々な資料を参考にしながら、社内で検討を重ねてオリジナルフクロウの形を追求しました。成型金型の元となる最初のモデルは、職人による手彫りのもの。通勤の道中に工房があり、出勤前に度々通っては依頼先のスタッフや職人の方々と細かく修正を重ねたことを思い出します。特に羽毛の質感を出すことに気を遣いました。



(右の写真は製作中のモデル)

特長 2 天敵ニラミ

実は、モデルにしたフクロウの目は黄色なのですが、製品の目は赤色です。これは目玉となるパーツは当時の購買担当者が苦労して探してくれていたのですが、探す中で黄色以外にもバリエーションが見つかり、威圧感を出すために赤色を採用しました。文字通り、天敵に「ニラミ」を利かせる赤い目となりました。



特長 3 手間を惜しまない、細部への作り込み

今では、当初のプロジェクトメンバーの元から巣立っていき、カラーリングも変化して、ベンガルワシミミズクのカラーとは違いますが、当初から変わらないのは一体成形されたボディに、社内でパートの皆さんが一つひとつ手作業で色付けをしていることです。この丁寧な手仕事で、製品に命を吹き込んでいるのです。



樹脂ガイシ G1320

畑などを囲う電気さくのおさく線を、支柱に固定するためのパーツ。製品のコンセプトは、様々な支柱に、これ一つで対応できるようにすることです。



特長 1 お客様の声から生まれた、マルチ対応モデル

お客様から「手元にあるスキーストックや、ビニールハウスのパイプを有効活用できないか」という声をいただき、開発がスタートしました。13mmから20mmまでの太さの支柱であれば、何にでも取り付けられる汎用性の高さがこの製品の最大の特長です。

特長 2 数百個の設置も楽にする、取り付けやすさ

電気さくの設置では、このガイシを何百個も取り付けることがあります。そこで、少しでも作業負担を減らせるよう、取り付けやすさには徹底的にこだわりました。蝶番のように横からパチッと開いて支柱を挟み込めるので、上から通す手間がありません。さらに、ネジ山を大きく設計し、少ない回転数でしっかりと固定できるようにしました。一つひとつの作業は小さくとも、積み重なれば大きな時間短縮になります。こうした「使いやすさ」の追求が、我々の製品づくりの根幹です。



お客様から寄せられる疑問や不安。今回は、現場でよくあるトラブルの原因と対策、そして製品を最大限に活用するための方法を解説いたします。

Q.1

電気さくに電気が流れていないようなのですが……

原因がどこなのかを明確に分けてみてください！



「電気さくに電気が流れていない」ときは、まず本器由来かさく線由来かを切り分けて確認してください(本器の出力コードをさく線から切り離します)。本器だけで点検動作が正常ならばさく線側に原因が、本器の点検ランプが点灯する、または何も動作しない場合は、本器に原因があります(あわせてさく線の点検が必要な場合もあります)。

バッテリーコードの
接続忘れには
ご注意ください！



☑ ソーラーパネルの注意点

1つめは購入直後の動作に関するもの。出荷時バッテリー保護のために外されているバッテリーコードの接続忘れです(写真)。日中太陽光で動作しているように見えますが、夜間は動いていませんので、必ずはじめに配線を確認ください。もう1つはソーラーパネル発電に関する誤解です。発電に必須なのは太陽の「直射日光」。パネル上に影ができると急激に発電量が低下しますので、立ち木や電柱などによる陰ができないようご注意ください。

☑ さく線の漏電原因の見つけ方

電気さくの大敵は漏電です。その原因は下草が大半ですが、そのほか針がねや園芸用支柱、ハウスパイプ、ワイヤーメッシュということもあります。設置距離が長いときは、出入口を利用して区画を左右に分け(距離を短くし)、それぞれに電気を流し、原因となる位置を特定していきます。歩いても原因が見つからない場合は、この方法で対応しています。



取締役専務

あかい かつみ

赤井 克己さん

Q.2

柵を設置していただいたのに動物に侵入されてしまいました！

動物は夜だけではなく昼間も侵入します、
24時間体制での通電が基本です！



動物の侵入は、電気さくの機能不全よりも、人的要因がほとんどです。多くのお客様は、昼間は動物と遭遇しないため、「夜だけで良い」と考えがちですが、動物は人がいなくなった隙を狙って侵入してきます。可能な限り、24時間電気を流し続けていただくことをお勧めします。

まずはこちらを Check !

☑ きちんと囲んで…地形の凹凸に沿って…

まずは守る場所を確実に囲むこと。道路側や河川側も解放する場所を作らずしっかり囲みましょう。そしてさく線の高さが地形の凹凸に沿っていることもとても重要です。そのために重要なのが支柱の位置です。ガイシやクリップはさく線の高さを微調整できますが、それだけでは不完全です。多少資材数は増えますが、支柱の位置は慎重に決定してください。

☑ 周辺環境の整備

電気さくは防護柵としてだけでなく、野生動物に「ここは人の領域」と認識させる役割もあります。そのため、電気さくの下だけではなく、周辺の草刈りをして見通しを良くするようお願いいたします。草刈りは大変な作業ですが、電気さくの防護機能をさらに高めることにつながります。



イノシシ対策で重要な
さく線の高さは 20cm
(手のひらを目いっぱい
広げた高さ)

私たちは、お客様が安心して電気さくを使えるよう、協力的な体制を常に整えています。
使い慣れない点やご不明な点があれば、どうぞお気軽にお問い合わせください。